

飯豊連峰の山越え釣行



【日程】 2024/7/13～15

【メンバー】 黒須（リーダー）、平江、伊藤、大貫、内野、鈴木（記）

【場所】 飯豊連峰エリア

【前夜祭】

道の駅に深夜に集合。つまみを広げて小宴会をしていると、続々とメンバーが集結。今回は山越えルートで深い谷への二泊三日の釣行。初日の深酒は禁物（笑）。サクッと飲んで道の駅のレストランの屋根の下に寝袋を広げて就寝。

【一日目】

道の駅から車で登山道の入口へ向う。山小屋のご主人からテン場や入渓点など、貴重な情報をいただく。

林道を少し進むと、登山口の看板。登山口は草が生い茂って不明瞭。おそらく一般登山者は利用しないのだろうとか考えながらまずは山越えスタート。



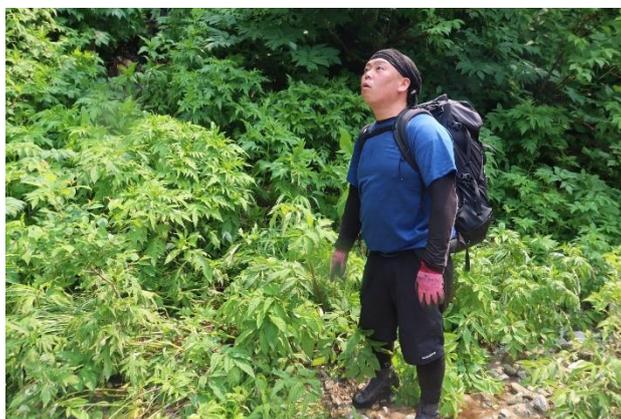
地図上では一気に標高差 700m 登るコース。初めから急登の連続。酒と食料が大量に入った重たいザックが体力を消耗させる。約 3 時間で目的のピークへ。休憩していると後から人の声。なんと 2 人組の釣り人。話をしてみると同じテン場を目指していることが判明。深い谷なのでテン場も釣り場も限られている。話し合いの結果、先に来ている我々パーティーが上流、二人組が下流川のテン場へ。



山頂での記念撮影

山頂からは地形図見ながらのバリルート。今度は標高差 400m の急斜面を一気に下る。樹木に捕まりながら、転びながら降りること 2 時間。リーダーの好判断のお陰で無事目的地に到着。沢に降り立った時は、皆で歓声を上げ、水に飛び込む。

自分はザックにぶら下げていたコップと熊鈴、カメラのカバー、膝サポーターが無くなっていた。



約 5 時間かけて山を越え、沢に到着したときの伊藤さん、平江さん、そして何かを見つめる大貫さん

少し沢沿いを歩いてテン場を目指す。実は山の中腹から、ブルーシートらしきものが見えたので、まさかとは思ったが、目的のテン場には先行者がタープを貼っている。前日から設営しているようで、既に釣りに出かけ誰もいない。仕方がないので、支流に少し入ったところで、テン場を開拓しタープ設営。準備に入る前に早速竿を出すと大貫さん、黒須さんが、イワナを釣り上げる。黒須さんの2匹目は32cmの尺上だった。



釣った魚と記念撮影の黒須さん、大貫さん、内野さん（あれ？）

そして源流宴会に突入。それぞれに準備した一品を披露。



高野豆腐とワカメのスープ（平江さん）



いかの塩辛入りポテトサラダ（内野さん）



コーンビーフと芋の炒め物、もつ煮込み（鈴木）



1日目の宴会風景

【2日目】

朝食後に全員で上流へ。餌、テンカラ、フライ、ルアーのオールスター（笑）先行者が先に釣り上がっているようで、釣果はイマイチではあったが餌の黒須プロとフライの内野プロが釣り上げる。



3時間ほど釣り上がったところで、昼食。黒須さんのガーミンの衛星通信による最新予報によると夕方から雨。沢が増水すると渡渉ができない可能性があるため、早めに戻ってテン場の引っ越しをすることに。

すると上流から2名の釣り人が。前日から入って、3泊4日の予定だとか。最新の天気予報を伝えると、もう一泊せずに撤収（下山）するとのこと。

我々は下山ルート入口付近の高い場所にテン場を確保。予報通り雨が降ってくる。沢の水が少し増えたところでルアーを投げ込むと、高活性。良型のイワナをゲット。



そして、濡れた流木で火をおこし2日目の源流宴会スタート



雨の中、流木に火をつける平江さんと黒須さん



濡れたおしりを乾かす



宴会風景



岩魚の刺身



キノコパスタ (平江さん)



卵焼きからの春雨サラダ (伊藤さん)

【3日目】

予報の通り雨も上がる。朝食をとり方付けてから下山。といっても山越えとなるため、不明瞭な踏み跡をたどっての上ること約3時間。目的の山頂に到着。その後は登山道を下山。

参加された皆様、3日間ありがとうございました。先行パーティーが2組もいたり、雨に降られたりとハプニングもありましたが、楽しい釣行となりました。



真夜中の一発芸大会